

## 飯島賢二の『恐縮ですが・・・一言コラム』

### 第27回 「ニッポン再生」～アクティヴシニア

熊谷の印刷会社「ピーアイピー」(植竹知子社長)が企画して、中高年向け情報誌「日々好日」(ひびよきひ)を創刊した記事が、朝日新聞(2004年2月14日朝刊・埼玉版)に掲載されていた。それによると編集人6人は全員60歳以上、最年長編集人は80歳である。元気な、活動的なお年寄りを「アクティヴシニア」とし、同じ目線で読者が望むものを見つけていく...、発行部数は15,000部との事である。アクティヴシニア構想は、小生前々から大いに関心あるところであり、大変興味深く、新聞を読ませて頂いた。

わが国の平均寿命は男女とも世界1位、女性約85歳、男性約78歳になんなんとする。この事はよく言われることだが、実はもう一つデータがある。世界保健機構(WHO)が2000年に発表した「健康寿命」のランキングがある。これは、平均で何歳まで健康に生きられるかというもので、日本が74.5歳で191カ国中第1位、アメリカは24位で70歳、韓国、中国はどちらも62.3歳、ちなみに最下位は、内戦の続くアフリカのシエラレオネで、僅か25.9歳である。

日本は年金の関係もあって、65歳定年、従前より延長という政策がなされてきた。しかしフランスは逆である。70年代は平均64.5歳でリタイアしていたが、80年代は61歳に、21世紀にはいるやついに57歳になった。マドモアゼル・ムッシュ達は、とにかく早く引退したいらしい。何故ならもちろん、自由になりたい、様々な楽しみが待っているからである。フランス人は自ら自由を創り、自ら楽しむ、だから早く引退したいという。お上(かみ)頼りの日本人は、自分の老後の仕事の世話から、果てはその楽しみ方まで、誰かに頼ってしまう、そんな国民性の差なのかもしれない。なんだか羨ましくなるような、気の持ち方である。

そして年齢・世帯別の金融資産保有額、65歳以上は1,736万円、アメリカの同値755.3万円を大きく上回っている。ちなみに小生の世代(45~54歳)の2.26倍である。ストックとしては、かなりの蓄積である。経常的な収入額は少なくなっているかもしれないが、自由に使える額(可処分所得)は確実に増えている。(00年「労働白書」より)

そんな「アクティヴシニア」に「団塊の世代」が加わり、益々大きなパワーとなり新たなソサエティを形成しつつある。元気で、知識も経験も豊富で、しかも可処分所得の多いアクティヴな熟年パワー、この人達が社会的にやるべきことは、まだまだ沢山有るはず。いや、あるいはこの人達のパワーこそ、「ニッポン再生」の源になるかもしれない。もう少ししたら、生きがい創出...なんて消極的な言い方でなく、「我々こそニッポンの核だ!」と言わんばかりのパワフル宣言が、ひょっとしたら、聞こえてくるかもしれない...